報告日　令和7年12月22日
報告回次　　3日目

令和７年度　地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

１．申請団体情報

１－１．申請団体

団体名	鹿嶋市教育委員会			代表者名	川村　等
担当者部署(属性)	企画担当	担当者部署名	教育指導課	連絡先電話番号	0299-82-2911
担当者役職	指導主事	担当者氏名	神宮司　剛	連絡先E-mail	
住所	314-8655　茨城県鹿嶋市平井1187番地1				

１－２．推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

１－３．支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	鹿嶋市情報教育研修会
概要	教育用生成AIの活用など、学校のDX化による授業の質的向上と校務の効率化の両立を目指した先進事例の授業公開、研究協議、講師指導を行い、その成果を保護者、地域住民及び市内教員と共有することにより、児童生徒、保護者、地域住民及び教員の情報活用能力の向上を図る。		
支援を求める分野	人材（ＤＸ推進のための機運の醸成） 人材（ＤＸに関する知識習得・研修・育成） AI活用 生成AI活用 教育情報化／情報教育 働き方 ICT活用広報		

２．地域情報化アドバイザー派遣実績

２－１．対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年12月18日	支援・助言&講演(実地)	13時30分	16時30分	
				活動時間（分）	180

２－２．派遣場所	会場名	鹿嶋市立三笠小学校	最寄駅	鹿島神宮駅
	所在地	茨城県鹿嶋市宮中２０４２－１	最寄駅からの交通手段	送迎

３．派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	平井　聡一郎
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	教員の大きな不安要素であった「プロンプト作成の負担」に対し、AIを活用してプロンプト自体を生成するテクニックや、事務作業を効率化する校務DXの具体策を伝授した。単に「ICTを使う」だけでなく、それによって「教員が子供と向き合う時間を生み出す」という本質的なDXの価値を実感させた。また、全3回の派遣を通じ、各校の推進リーダーに対して、専門的知見に基づく熱意ある指導を継続した。アンケート結果において9割以上の参加者が「非常に参考になった」と回答し、「とりあえずやってみる」という前向きなマインドセットを市全体の教育DX推進組織の中に定着させた功績は極めて大きい。
アドバイザーへの要望事項	教育DXの推進を加速させ、学校間の活用格差を解消するためには、平井先生の卓越した知見が不可欠である。次年度も継続した派遣を強く希望する。

４．依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

４－１．支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	40人
属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	40			

４－２．支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	市を挙げた教育用デジタルドリルや教育用生成AIの活用といった取り組みにおいて、学校間で格差が生じている。本事業を通じて、教育利用、校務利用の両面で好事例を継続的に共有していく必要がある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	様々な情報教育研修を通じて教育DX推進リーダーを育成し、市内全ての小中学校で1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。
アドバイザーに支援を受けた内容（具体的にご記入下さい）	・第6学年算数科「拡大図と縮図」において、スクールAIとCanvaを活用した個別最適な学びの授業を参観し、事後指導を受けた。 ・「主体的に学習に取り組む授業にするためのICT活用」をテーマに、各校の推進リーダーと「授業における効果的活用」および「校務における好事例」について協議し、専門的知見に基づくフィードバックを受けた。 ・「児童生徒の学びを支える『教育DX』を実現するために」と題し、AIを思考のツールとして使いこなすためのプロンプト作成技術や教員の働き方改革に直結する校務DXの最新動向について講話を受けた。

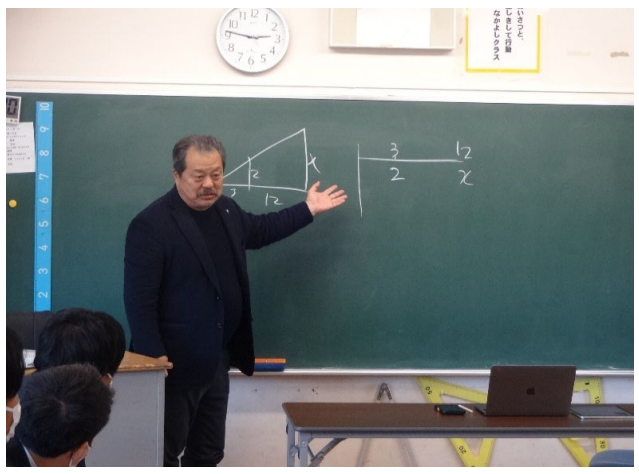
支援を受け改善又は解決された内容 （具体的にご記入下さい）	・1回目・2回目からの課題であった「AIをどう授業に組み込むか」に対し、児童が自分の考えをノートに書き、写真でAIに送って対話するという具体的なモデルが提示された。 ・教員が手動ですべての指示文（プロンプト）を作成する負担が懸念されていたが、アドバイザーより「AIを活用してプロンプトを生成する手法」が伝授され、教材研究の効率化と質の向上の両立が可能となった。 ・分科会を通じて、Canvaによる既習事項の可視化（学びのキセキ）や、理科の実験結果の共有、体育の動画分析、さらにはAIによるテスト作成や所見案作成など、具体的かつ即効性のある事例が市内各校のリーダー間で共有され、学校間の活用格差の解消に向けた大きな一歩となった。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑤組織業務改善ができた
	スクールAIのプロンプトを明示した学習指導案の作成を通して、ICT活用の意図を可視化し、校内研修を深化させる手法を確立した。	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 （具体的にご記入ください）	スクールAI活用の有効性は確認されたものの、教員による毎時間のプロンプト作成負担の軽減や、自力解決が困難な児童（学習下位層）に対するAI活用の限界と教員の個別指導との役割分担が課題として残った。 また、ICTを使いこなす前提となる児童の読解力の向上や、市内の学校間・教員間における活用スキルの格差解消に向けた継続的な研修の実施が、次年度以降の持ち越し事項となった。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（ＥＸＣＥＬやＰＤＦでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。	
	・参加者の満足度は極めて高く、４段階評価でほぼ全員が最高評価を付けた。 ・理論だけでなく「明日から自分の教室で使える」具体的な手法が共有されたことで、教育DX推進リーダーとしての自信と意欲が大幅に向上した。	
４－３．今後の計画	最も当てはまるものリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
	次年度は、教員のプロンプト作成負担を軽減するため、本研修の指導案や各校の実践で有効だったプロンプトを蓄積・共有するクラウド上の「プロンプトバンク」を構築する。あわせて、アドバイザーから伝授された「AIにプロンプト自体を作成させる手法」の普及を図り、教材研究の効率化を推進する。	
４－４．事業の最終的な目指す姿	令和8年度末までに、市内全校の教員がICT機器の授業における効果的な活用方法を共有・普及させることで、教員のICT活用指導力を向上させる。これにより、未来の地域活性化を担う児童生徒に必要な情報活用能力の育成に貢献する。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可	○掲載可

なお＜その他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

6．地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における**地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」**を数枚程度貼り付けて下さい。